

〇〇年前の土器ってどうしてわかるの？

その1 土器の形や文様から

縄文時代や弥生時代の土器は、形や文様などの特徴から最初に発見された遺跡名などにちなんで、〇〇式土器と呼ばれます。土器の形や文様は、時間の経過とともに変化する性質があります。その変化の方向性などを研究することによって土器の新旧関係を明らかにし、その土器の時代や時期を位置づけています。このようにして、土器は遺跡の年代を知るものさしとされてきました。

その2 火山灰の年代から

火山灰はこれまでの研究成果で、噴出場所や噴出年代が分かっています。鹿児島島の地面の下には霧島、桜島、開聞岳、鬼界カルデラ等の火山灰が堆積しており、どの層から土器等が出土したのかで、年代の目安になります。例えば、写真の薩摩火山灰（白っぽい層）は今から1万2,800年前の桜島から噴出した火山灰です。薩摩火山灰の下から出土したら、1万2,800年前より古く、上から出土したら1万2,800年前より新しいということが分かります。



薩摩火山灰 約一万二八〇〇年前

その3 炭化物から

土器には様々な情報が残ってます。その中で、年代を知る手がかりとなるのは、土器に付着している火を受けた時の煤やおこげ、煮こぼれ等の炭化物です。炭化物の中の炭素14という物質は5,730年経つと質量(重さ)が半減するという性質があります。その性質を利用して、付着している炭化物の年代を測定することができます。



これらの土器の形や文様、火山灰、炭化物の測定値を総合的に分析して、「今から〇〇年前の土器」と判断するのです。

「かごしまの遺跡」は、ホームページからダウンロードできます。
(公財)埋蔵文化財調査センターのホームページは、上野原縄文の森 (<https://www.jomon-no-mori.jp>) または、鹿児島県文化振興財団 (<https://www.houzanhall.com/zaidan/>) からお問い合わせください。

検索キーワード
上野原縄文の森 検索

～かごしまの遺跡～ 第24号
発行日 令和3年3月1日
編集・発行 (公財)鹿児島県文化振興財団
埋蔵文化財調査センター
〒899-4318 鹿児島県霧島市
国分上野原縄文の森2番1号
TEL.0995-70-0574 FAX.0995-70-0575
URL:<https://www.jomon-no-mori.jp>
E-mail: maibunchosa@tuc.bbq.jp



かごしまの遺跡

第24号

令和3年3月1日



北山遺跡 (阿久根市山下)
～よみがえる古代の「あくね」～

北山遺跡では、平安時代～室町時代(約1,100～400年前)のものと思われる掘立柱建物跡が2棟発見されました。上の写真を見ると、柱の穴が並んでいることが分かります。柱の穴の間隔がせまいところは、庇だったと考えられます。柱穴は、直径70～80cmほどの比較的大きなもので、建物の規模も広さ60㎡と立派な建物です。このような立派な建物は、地位の高い人物が使用していた可能性があります。



令和2年度の整理作業報告

六反ヶ丸遺跡 (出水市六月田町)

六反ヶ丸遺跡は、縄文時代晩期～近世(約3,000～300年前)までの遺跡です。古墳時代前期を中心とした集落跡が確認され、遺構とともに多量の遺物が出土しました。出土遺物を見た専門家の指導から、島原半島・天草諸島との文化交流なども検討しています。



細山田段遺跡 (鹿屋市串良町・曾於郡大崎町)

細山田段遺跡では、縄文時代前期末・中期(約5,000年前)の170を超える土坑(掘りこんだ穴)の発見や大量の土器が出土しました。特に出土した縄文時代中期の土器は第一級の資料であり、南九州の縄文時代研究において文化と社会を解明する手がかりになるものと期待されます。



春日堀遺跡 (志布志市有明町)

春日堀遺跡は、縄文時代早期(約10,000年～8,000年前)の遺跡です。当時の建物跡や調理施設などの遺構が非常に密集した状態で発見されています。これは、長期間にわたり人々が生活していたためと考えられます。ここから出土した土器や石器などの細かな特徴を調べ、当時の人々のくらしを明らかにしていく予定です。



荒園遺跡 (曾於郡大崎町)

荒園遺跡では、縄文時代早期の調理施設と考えられる40基の集石遺構が検出されました。また、狩りに使われた石鏃などの石器の石材には、大分県から持ち込まれた黒曜石も多く見られます。他にも丁寧に調整され、きめ細やかな施文の塞ノ神A式土器、やや粗雑に見える塞ノ神B式土器・苦浜式土器、耳飾りなども見つかっています。



小牧遺跡① (鹿屋市串良町)

小牧遺跡の旧石器時代(約20,000年前)には、槍先形尖頭器、ナイフ形石器・三稜尖頭器、細石器をそれぞれ主体とする3枚の文化層があることが分かりました。縄文時代早期には堅穴建物跡38軒、調理用施設と思われる連穴土坑7基、集石51基の他に、土器や石器も多数出土しました。



川久保遺跡 (鹿屋市串良町)

川久保遺跡では、縄文時代早期(約10,000～8,000年前)の調理施設と考えられる連穴土坑12基、集石276基が発見されていますが、住居跡は見つかっていないため、キャンプサイトの遺跡であったと考えられます。古代・中世には掘立柱建物跡が建ち、青磁や白磁などの中国産貿易陶磁器なども多く出土しており、中世の土坑墓には白磁の碗が埋納されていました。



小牧遺跡② (鹿屋市串良町)

小牧遺跡の縄文時代後期(約3,500年前)の調査では、堅穴建物跡や石皿を埋めた土坑などを中心とした集落跡が見つかっています。特に石皿を立てた立石遺構は、大変めずらしいものです。



山ノ段遺跡 (出水市下鍋町)

山ノ段遺跡は、縄文時代早期(約10,000～8,000年前)を中心とした遺跡で、倒木や土石流などの影響を受けやすい地形に位置しています。土器や大型の尖頭器、数多くの石鏃(矢じり)が出土しています。



令和2年度の発掘作業報告



六反ヶ丸遺跡 (出水市六月田町)

六反ヶ丸遺跡では、4回の発掘調査により、主に古墳時代(約1,700年前)の堅穴建物跡や土坑などが発見されました。また、高坏や壺などの土器を中心とした多種多様な遺物が多く出土しました。土が乾燥しやすくコンクリートのように硬くなるため、水で湿らせたりシートを被せたりするなど乾燥対策が必要でした。



北山遺跡 (阿久根市山下)

北山遺跡では、平安時代から室町時代(約1,100年～400年前)のものと考えられる掘立柱建物跡や土坑などが発見されました。また、土師器や須恵器、貿易陶磁器、石鍋、石臼、金床石など多くの遺物が発見され、当時の人々の生活に思いを馳せることができました。2mを超える深さの遺構も発見されており、今後土壌分析などを行い、機能や使用目的などについて検討する予定です。

